

和のこころ
たいせつに

Ruruto
るると

季刊 No.43
Winter

特集

文様に祈りと願いを込めて

二十歳の振袖
吉祥文様ものがたり

和のこころ たいせつに
るると 2022 Winter

令和4年12月1日発行 発行人／望月浩幸 編集人／るると編集委員会
発行所／日本きものシステム協同組合 京都府京都市下京区烏丸通六条上ル北町1-8-1番地第5キョートビル8F

定価 545円(税込)

Japan
Kimono
System



人心新歲月



いろいろなことがあった一年。

小さな良いことを探しながら振り返りたい、

そんな一年だったかもしれません。

新しい年を寿ぐ想いには、

人の心が新たになり

春の空気で大地が穏やかになるようにとの

古来からの願いが込められているのでしよう。

こんな時代だからこそ

日本の伝統を大切に

より丁寧に新しい年をお迎えしたいと思います。



店舗サイト



Instagram

引網香月堂 4代目
和菓子職人 引網康博
銘) ゆく年 くる年

Ruruto るると

季刊 No.43 Winter

CONTENTS

縷々と

「長く続いて絶えないさま」「途切れることなく思いを述べるさま」を、縷々(るる)といいます。この雑誌『るると』が、きものを初めとする日本の美しい風俗、文化を少しでも時代を超えて次代へつないでいく役割を担えたらと、そんな願いを込めました。

4

[特集]

文様に祈りと願いを込めて

二十歳の振袖 吉祥文様ものがたり

16

[工房探訪]

錦袋帯 川島織物セルコン

20 着物お手入れの知恵
成功の境界線 ママ振り大作戦

24 季節を楽しむ、旬の小物たち 冬

26 きもの美人への登竜門
「一人でできるアレンジヘア」

28 つまみかんざし花万葉 冬
ゆるり工房凸凹庵

30 [最終回]
京の隠れ家グルメ
祇園にし 味噌漬け

31 装いは人柄

32 おしゃべりなきものアルバム

36 『るると』お便りコーナー

37 読者プレゼント

38 ルルトピックス
アンケート
春号予告

[表紙]

着物：吉澤織物
帯：梅垣織物
モデル：R I N





右
振袖：ナナクサ染匠
帯：おび弘
左
振袖：久保耕
帯：河合美術織物

特集
文様に祈りと願いを込めて
二十歳の振袖
吉祥文様ものがたり

二十歳の記念にまとう振袖には、
人生が豊かで幸せに満ちあふれたものになるように
との祈りと願いが込められた、吉祥文様がたくさん描かれています。
意味を知ってまとうことで、
装いの楽しさや感謝の気持ちが深まることでしょうか。

撮影協力／THE HOTEL HIGASHIYAMA by Kyoto Tokyu Hotel



THE HOTEL
HIGASHIYAMA
by Kyoto Tokyu Hotel



〒605-0033 京都市東山区三条通白川橋東入三丁目夷町175-2
Tel 075-533-6109 Fax 075-533-6122
www.tokyuhotels.co.jp/higashiyama-h/



商品協力／愛染舎 小川屋 鳳裳苑おぐり 紀久屋 望幸
撮影／タカヤコーポレーション
取材写真／秋本きりん
着付け／羽尻千浩 ヘアメイク／添田麻莉
モデル／JKS専属ドリームエンジェル RIN YUKI

植物文様

四季の変化に富んだ美しい国、日本では、さまざまな植物が身近にあることから歌に詠われ、文様に描かれてきました。その美しさ、可憐さ、生命力を愛でる心が日本人の美意識を刺激し、多種多様な意匠が生まれました。誰もがよく知る「松竹梅」をはじめとして、数多くの植物文様の中から、振袖に描かれる特に縁起の良い代表的なものを紹介します。



振袖：吉澤織物
帯：川島織物セルコン



松

常緑樹の松は、いつの季節も緑色を保っている凛とした強さや、千年の樹齢を誇ることから長寿の象徴として吉祥の木の最高峰とされています。光琳松、老松、唐松、若松、笠松、磯馴松など意匠もさまざまで、格調高い文様として留袖や振袖など第一礼装などに多く登場し、お召しになる方の品格を感じさせてくれます。



竹

松と同様に常緑で、しなやかで強く、折れない竹は高潔さや節度の象徴です。神の依代として祭祀にも用いられるなど尊重されてきました。心が折れやすい現代社会では、多くの人の心の支えになりそうな意匠です。



梅

中国から天平時代に伝来し、万葉集には120首も詠まれ、襲色目にも用いられるなど好まれてきました。寒い冬に他の花に先駆けて清楚な美しい花を咲かせることから、忍耐力、生命力の吉祥文様として着物や帯だけでなく多くの工芸品の名品が生まれています。特にたくさんの滋養豊かな実をつけることから子孫繁栄の象徴ともされていますので、振袖にふさわしい吉祥文様です。

捻梅 (ねじうめ)
捻梅のように図案化され、輪郭の中に細かな吉祥紋を描くのも京友禅などの技法でよく用いられます。



橘

家紋にもよく用いられる橘は、ミカンの仲間、ひな人形の飾りにもあるので、「ああ、あれ」と思い出す方もいらっしゃるでしょう。最も有名なのは京都御所紫宸殿の右近の橘です。文様としてはかなり具象化、図案化されているのでミカンの仲間には見えないかもしれません。『日本書紀』には「常世からもたらされたもの」と書かれており、松と同様に常緑樹。長寿や繁栄を表す文様として振袖にはふさわしい吉祥文様です。



桐

成長が早いことから、女子が誕生すると庭に桐の木を植え、嫁入りのたんすにしていた時代もありました。中国の神話では聖なる鳥である鳳凰が舞い降りる木とされています。古来から、願いがかなうとされる縁起の良い木で、菊とともに皇室の紋にも用いられている格調の高い文様です。花房を伸ばして変化をつけた「踊り桐」は特に華やかで振袖や花嫁衣装に描かれます。立涌の中に図案化した桐を描く図案は、直垂や袴などに描かれてきました。



桜

桜の「さ」は「早苗」「早乙女」の「さ」。「くら」は「神楽」「神蔵」の「くら」。私たちの遠い祖先は、神様のよりどころを「さくら」と呼びました。五穀豊穡を表す縁起の良い桜が文様として描かれるようになったのは平安時代。枝葉の付いた写実的な描かれ方から、花だけ、花びらだけ……とさまざまな文様として描かれています。長い冬を耐え抜いて一気に咲き誇る姿から幸先の良さをイメージさせる桜の文様は、大人の人生のスタートにお召しになる振袖にはぴったりです。



楓 (紅葉)

楓が紅葉するともみじと呼ばれます。特に青葉を描いたものは青楓と呼ばれ、桜と共に描かれたものは桜楓文様と呼ばれます。楓は長寿を意味する吉祥文様で、晴れ着にもふさわしい文様としてよく用いられます。新緑から紅葉の季節まで美しく姿を変えながら常に人々の目を喜ばせ心を潤してくれることから、人気や人望の高さを表し、上手に世の中を渡っていきますようにという願いが込められています。



椿

椿は橘と同様に日本原産の花で、春の到来を告げる聖なる木として好まれてきました。「永遠の美」を表しますので、お嬢さまの出嫁にはふさわしい文様です。常緑樹ですので、松と同様に長寿や繁栄の願いも込められています。



花の丸

さまざまな草花を図案化して丸く描いたもので、刺繍でもよく用いられます。それぞれの花の縁起ももちろんのこと、優雅で華やかな古典文様です。お嬢さまの晴れ着にも最適。その他に「花籠」「花袋」「花車」「花鬘斗」「花扇」など、多種多様な花を華麗に文様化したものはいくつかの時代も人気です。



薔薇 (ばら)

西洋のイメージが強い薔薇ですが、意外なことに「古今集」の中で「さうび」と詠まれています。しかし、文様として描かれるようになったのは最近になってからで、いうまでもなく「愛」と「美」の象徴です。

参考までに代表して紀貫之の歌をご紹介します。
「我はけさうひにぞ見つる花の色を
あだなるものといふべかりけり」
あだなるもの「色っぽいもの」と「はかないもの」の両方の意味を持ちます。

文様 植物



振袖：染の百趣 矢野
帯：帯清

横菊

菊を横から見た姿を大胆に描いた文様で、大変珍しい吉祥文様です。江戸時代の寛文小袖の「菊に棕櫚文様帷子」にもダイナミックに描かれています（京都国立博物館収蔵）。当時のひな形本「雁金屋呉服注文台帳」にも横菊があり、個性的な吉祥文様を好むお嬢さまには最適な振袖です。



菊

日本には奈良時代から平安時代にかけて中国から渡来しました。陰暦九月九日の重陽の節句には菊の露と香りを移した「着せ綿」で身体をぬぐい菊の花びらを浮かべた酒を飲んで延命長寿を願う行事があります。「日本書紀」には、天武天皇が宮中行事として行ったと書かれ、長崎や佐賀では「おくんち」として形を変えて受け継がれています。その基になった中国の伝説というのが「葦衣類聚」という類書の菊の項目に記載された「菊水伝説」で、その内容は「中国の酈という地方に流れる川の源流に菊が群生し、菊花の露が集まり川となってい

る。この川沿いの小さな集落、大天の人たちは、菊花の雫がこぼれ落ちた川の水を飲んで菊の生氣を得ているために百歳を超える長寿の者が多い」というもの。さらに「菊は百草の女王、神仙界のシンボルで、そのエキスを飲めば長寿不老の効能がある」とされています。不老不死、無病息災、邪氣払いなどは、こうした伝説に貴族が強い憧れを抱いたことによるものです。菊は、季節としては秋の花ですが一年中お召しになることのできる吉祥文様です。



藤

平安時代後期、藤原氏全盛の頃に文様として完成しました。当時は「藤見の会」などが催され、転じて不死身の会の意も、隆盛を誇った藤原氏です。有職文様にも多く見られます。藤立涌、藤の丸、巴藤など図案化されて家紋にも用いられています。藤は繁殖力が大変強く、山藤などは他の樹木に絡みながら蔓を伸ばしていきます。そのことから葡萄など他の蔓性の植物と同様に、長寿や子孫繁栄の象徴とされています。さまざま花が上を向いて咲きますが、藤の花は下向きに大きく伸びて花を咲かせることから神が降臨する使いともいわれました。風にたゆたう美しい藤の花は、吉祥文様筆頭の松と共に描かれることも多く、格調の高い優雅な振袖にふさわしい文様です。



振袖：加賀友禅 松任いち作
帯：川島織物セルコン



振袖：滝泰
帯：川島織物セルコン



振袖：ナナクサ染匠
帯：おび弘



牡丹 (ぼたん)

百花の王といわれる牡丹は、奈良時代に中国から伝わりました。豊年満作の兆しとなる「瑞花」であることから、幸福、高貴、富貴と、いうことなしの縁起の良い花です。ダイナミックな花は豪華な振袖にぴったりです。小さなつぼみからどんどん大きな花を咲かせるので、立身出世をイメージする方もいらつしやるかもしれません。大きな夢をお持ちのお嬢さまにはぜひお召しいただきたい文様です。能に由来する、獅子と共に描かれた唐獅子牡丹、名物裂の牡丹唐草なども知られています。

特集 二十歳の
振袖
吉祥文様
ものがたり

文器 様物

筆、家具、文房具、茶道具……
身の回りで使われているあらゆる器物が
古くから文様化されました。
さりげなく、文様化してしまう日本人の美意識を強く感じます。
中でも、檜扇や御所車など王朝風の文様は典雅な晴れ着には
ふさわしく、振袖にも数多く描かれています。



振袖：久保耕
帯：河合美術織物



振袖：久保耕
帯：川島織物セルコン

手鞠

手鞠は、長い糸をくるくると巻き付けて作ります。糸巻
きと同様に糸から転じて縁結びの意味があり、良縁祈願
の意味を持ちます。産着や女兒の着物にも描かれる吉祥
文様です。また球体であることから、転じて丸く収まる
ように、円満な家庭などの祈りや願いが込められます。
手鞠にはさらに重ねて吉祥文様が描かれています。



檜扇

(ひなあしぎ)

扇は末広がりその形状から「すえひろ」とも呼
ばれ、末が広がることから吉兆の意味になぞらえ
て縁起の良い文様の代表格ともいえるほどよく描
かれます。扇そのものを描いたり、扇状を象った
地紙(扇に貼る前の紙)の中に縁起の良い文様を
詰め込んだりと表現方法はさまざまです。
檜扇は檜の薄板の上部を絹糸でとじた扇で、平安
時代の貴族が装身具として使っていました。組紐
も吉祥文様であり、紐の流れや極点も美しく、華麗
の極、慶事の文様として格調高い装いとなります。



御所車

車だけ、または車の一部が描かれることもありま
す。それらは「車文様」と呼ばれます。車いっぽ
いにあふれんばかりに花が描かれたものは「花車」
と呼ばれ「幸せがあふれる」に通じます。御所車
は源氏車とも呼ばれ、平安時代に貴族が用いた牛
車を美しく文様化したもので、牛はめつたに描か
れません。古典的で典雅な文様として格の高さを
表す礼装で好まれます。



貝桶

貝桶は、平安時代の遊びの貝合わせの蛤を入れて
おくための入れ物です。当時の女性は十代半ばで
嫁ぐことも珍しくなく、嫁いでは実家へは戻
れなかった時代に、こうした遊びや玩具は嫁入り
道具のひとつだったのです。遊び方は、蛤がも
もとの貝殻しか合わさらないことを利用した遊
びで、夫婦和合、夫婦円満の意味があります。
ひな人形の道具の中にも貝桶が見られます。
六角形に蒔絵を施したもので、すべて特別注文
の豪華絢爛なものでした。文様化されてからは、
良縁祈願の文様として振袖によく描かれるよう
になりました。



貝合わせ、蛤

貝桶と共に描かれたり、単独で描かれたりしま
すが、意味は同様に良縁祈願、夫婦円満で、振袖で
は貝桶や蛤の縁取りの中にさらに吉祥文様が描か
れます。



鼓

鼓をはじめ、雅楽を演奏するときに使う楽器は文
様化されて描かれることの多いもので、いずれも
典雅な姿に品格があり、王朝の雅の世界が晴れ着
に描かれます。ことに鼓は「鳴る」が「成る」に通じ、
豊作へ転じる吉祥文様でもあります。



糸巻き

能装束にも用いられる糸巻きの文様は、板状で正
方形の四辺を凹ませ、十字にカラフルな糸を巻く
タイプや、糸枠に糸を巻くタイプなどがあり、か
つては鞠と同様に女兒の着物によく見られ裁縫が
上手になるようにとの願いが込められました。
糸巻きの別名は「千切り」。契りに通じ、良縁祈願や
長い糸が長寿を意味する吉祥文様です。



矢羽根

鎧や服などとともに、武具が文様になったもの
で、必勝祈願を意味しますが、特に矢羽根は、弓
矢の矢で、上部には鷹、鷹などの羽根があり
矢羽とも書かれます。矢は飛んでいったら戻って
こないのので、一度嫁いだら生涯添い遂げるとい
う意味も、また神社から授けられる破魔矢にも通じ、
厄除けや幸運を射貫く縁起物でもあります。



宝船

室町時代に始まった習慣で、一月二日に良い初夢
を見るために枕の下に宝船の絵を入れておくとい
うところから始まりました。
米俵や宝物を山のように積んだ帆掛け船で、帆に
は「宝」の文字が描かれることも。後に宝物では
なくて七福神が乗っているものも誕生しました。
いずれも進学、就職、結婚などといった新たな旅
立ちを意味しますので、お嬢さまの門出に最適な
文様のひとつです。

文器物
様物



振袖：吉澤織物
帯：梅垣織物



振袖：丸福染匠

束ね熨斗 (のし)



熨斗は、鮑の身を薄く削いでたたいで引き伸ばし、紙の間に挟んで祝儀の進物や引き出物に添えたのが始まりです。熨斗袋の右上に貼られていたり、印刷されている縦長変形六角形の紙で黄色いもの

を包んでいるのが、いわゆる熨斗です。それを細く帯状にして文様化したのが熨斗文様で、大変縁起の良い文様です。多くは数本を束ねて文様にしてるので束ね熨斗と呼ばれます。長ければ長いほど、長寿祈願の意味が重なり、振袖を衣桁にかけて見ると大きくいっぱいに描かれているのが分かります。花の丸のように具象化されたデザインなどもあり、さまざまな描かれ方をします。

もともと進物や引き出物ですので、贈り、贈られる絆やつながりを意味することから人付き合いで困らないというお嬢さまの大人としての立ちにふさわしい、格の高いおめでたい文様です。

宝尽くし

宝物を集めた、もともとは中国の文様ですが、室町時代の頃に日本に渡来し、徐々に日本風にアレンジされ、時代によって少しずつ変化をしています。富貴繁栄、開運招福など、宝尽くしだけにお目出たいことの上ありません。これらはまとめて描かれることもあり、束ね熨斗や扇面、鞆、貝桶などの中に個別に描かれることもあります。現代でイメージするところの、猫型ロボットがお腹のポケットから次々と出す便利な道具さながらのものばかりです。

一寸法師や七福神の大黒天様が持っているのになじみのあるものですが、こちらでもまさしく吉祥文様です。振れば背が伸びる、宝物が出る打ち出の小槌、欲しいと思ったことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。



ちょうじ
丁子

召し上がったことがある方ばかりだと思います。これはスパイスのクローブのことで、シルクロードを通じて平安時代に日本に渡りました。当時は胡椒などと共に薬用に、染料に、油にと大変貴重で高価なものでしたので、宝物のひとつとされました。



にょいほうじゅ
如意宝珠

宝の珠で、かわいらしいカタチの先端からは火花が燃えていて、金銀財宝を思いのままに好きだけ出すことができます。法具のひとつで、実際にイメージしにくいお宝ですが、願いをかなえるために着けたい文様です。



みのかくれかご
隠れ籠

誰もが一度は夢見たことがある透明人間。天狗の道具とされる隠れ蓑、隠れ笠をかぶると他人からは自分の姿が見えなくなるという道具です。



まきもの
巻物

宝巻、巻軸とも呼ばれます。お家の秘伝やお経が書かれた大変貴重なものでした。二つの巻物入れを十字に重ねた文様は筒守と呼ばれ、同じく大変貴重な宝物です。



はなりんたい
花輪違い

花輪違いとは七宝のことで、七宝とは仏教の言葉で、金、銀、珊瑚、琥珀、水晶、瑪瑙、瑪瑙、珊瑚の宝物を意味します。七つの宝を文様化し、連続する丸で永遠、丸の連続で円満を意味します。



きんのう
金囊

巾着袋のことで、中身が砂金や金銀貨ですので、現代の財布です。



ぶんとう
分銅

地図記号で銀行を表す印も分銅を基にしています。秤で重さを量るときに分銅で、「ぶんとう」ともいいます。

自然・動物文様

気象を表現する言葉が大変豊かな日本語。雨を表す言葉だけでも100を超えらるか。感性と美意識が豊かな日本人は、水、雲、霞、雪、月などの自然現象まで文様化しました。メインで描かれることは少ないながら、場面を区切ったり、風景の一部となったり、メインの文様を生かしたりします。また、動物、鳥、昆虫といった生き物もまた、歌に詠み文様として描きました。



振袖：吉澤織物 新潟県知事賞受賞作

流水

流れる水は決して減むことがないことから好まれます。振袖の背景には流水、観世水が描かれ、全体を引き立てています。

空想文様

想像上、物語上で生み出された東洋独特の動物が、仏教などと共に中国からもたらされました。理想をもとに、自由に描かれていることから吉祥性が高く、礼装で好まれるものから、趣味性の高いものまで多種多様な楽しみ方ができます。また、日本人独特の感性で描かれたものなど、表現に制限がないことから芸術性の高い作品も多く見られます。



振袖：関芳 帯：織善 松田忍



辻が花

辻が花とは、辻……つまり名もなき十字路に咲く、想像上の名もなき花を指しますので、季節感はまったたくなく、一年を通して着用することのできる花です。しかし、辻が花という、文様を指すよりも布の一部を絞る「染技法」として室町時代に一世を風靡した絞り染めの一様を指すことが一般的かもしれません。

江戸時代に忽然と姿を消してしまったため、幻の染といわれました。1962(昭和37)年に久保田一竹氏がその研究と試行錯誤の結果生み出した「一竹辻が花」として甦り、二代目に受け継がれて現在に至ります。その後、多くの染工房が辻が花にチャレンジし、多種多様な絞り染めの振袖を生み出しています。



振袖：吉澤織物

鶴

有名なのは「鶴は千年亀は万年」という長寿の象徴の瑞鳥です。純白で、飛翔の姿の凛とした美しさ、高貴で誇り高い立ち姿ともに愛され、古くは「田鶴」と呼ばれて神鳥とされていました。有職文様では位の高い人の衣料に用いられました。鶴と亀と同様に、つがいになると生涯添い遂げることから夫婦円満の吉祥文様です。



蝶

吉祥文様の中では少ない虫類ですが、蝶は別格。奈良時代以降、その優美な姿や色の美しさ、舞い遊ぶ姿の可憐さなどから文様化され、平家ゆかりの家々の家紋や、有職文様にも用いられ、能装束や江戸時代の小袖にも多数描かれています。また、つがいの蝶の仲睦まじい姿から夫婦円満の吉祥文様として振袖にもよく描かれます。



振袖：青柳

桐竹鳳凰

織の紋様として、天皇の袍に善君の証として織り出されます。古代中国で、皇帝が天を祀ると竹の美をくわえた鳳凰が梧桐の木に舞い降りたという故事にちなんでおり、天皇専用の紋様でした。婚礼衣装や振袖に描かれるようになり、高貴な最高峰の文様とされています。



鳳凰

名君によって天下が太平になるときだけ現れるとされる中国で尊ばれた想像上の瑞鳥で、麒麟、龍、亀とともに四瑞(四霊)とされています。理想的に裝飾化され、鶏の頭に燕の頸、蛇の首、亀の背、魚の尾、五色綯爛、鳴き声も五音にかなう、日本には奈良時代に伝わりました。鳳凰の卵は不老長寿の薬とされ、不老長寿や永遠の若さの吉祥文様です。

真善美を追い求める精神を伝える

工房探訪

錦袋帯 京都 川島織物セルコン

技術が高いだけではなしえない、志や訓^{しん}えだけでもなしえない。その両方のバランスと、専門家集団による一貫生産の強みを最大限に生かしたモノづくりのその奥には真善美を追い求める精神と厳しい訓えがありました。



左から
錦袋帯 吉兆亀甲(白茶)
錦袋帯 新瑞華六稜文(白)
錦袋帯 彩美蜀甲(黒)

写真/中根禎裕

京都市内を北へ

京都に少しずつ観光客が戻りつつあるコロナ禍の9月の初旬、暑さのピークは過ぎたとはいえ、残暑の陽射しが容赦なく注ぐ京都駅に集まった「ると」編集チームは、スタッフの車で一路北へ向かいました。

今回は振袖の帯の取材です。大きな括りでは「西陣織」の取材で、向かうのは特集の撮影でもモデルさんが締めていた格の高い帯を制作している川島織物セルコン(以下川島織物)です。本誌では何度かお伝えしているとおり、京都には西陣という住所はありません。応仁の乱(1467-1477)の時に山名宗全率いる西軍が陣を敷いたあたりをそう呼びますが、地名よりも「西陣織」という響きのほうが京都の人以外には、耳に馴染みがあるかもしれません。

その西陣と呼ばれるあたりを通り過ぎ、白河法皇が、サイコロの目や比叡山の法師と並んで思うままにならぬもの一つに挙げた鴨川を右に見ながら京都市内をぐんぐん北上すると、景色はだんだん山の景色へと変わっていきました。30〜40分以上走って、涼しげな風景に少し心が和み始めた頃、車は大きく右へ曲がり、バスの操車場かと思うような広々とした駐車場に吸い込まれるようにして川島織物へ到着しました。想像していたよりもはるかに巨大な建物が並び、さながら自動車工場のようにです。

これまで西陣織の取材といえば、住宅街の間口が狭く奥が深い小規模な工房が多かったのに一転、ドーンと大きなスケールに圧倒されてキョロキョロしていると、数人の方が暑い駐車場へ飛び出して出迎えてくれました。

一貫生産

歌舞伎座の緞帳をはじめ、各地、各所の緞帳や、祇園祭の山鉦の懸装品など美術工芸品や芸術品さらにはインテリア製品を織るその礎は、すでに創業二代目にして出来上がり、それが連綿と現代に受け継がれているのだと改めて実感しました。

さて、取材班は次に実際に帯を作っているところへ案内していただきました。階段を降りて廊下を歩き、また別の階段を上り、別棟への渡り廊下を行きます。社内を迷路のように案内され、せっかくだけ汗がまたジワジワと出てきました。できるだけ帯が作られる順序で、という配慮をいただき、まずは図案と企画からということ、図案を作成したり、コンピュータで紋データと呼ばれるいわば設計図のようなものを制作する部署へ。シーンとした静かな薄暗い空間です。コンピュータのない時代は紋データも専用の方眼紙に手描きで色を塗ったりしていたそうです。配色の部屋では、おびただしい種類の糸が入った糸棚の艶やかな美しさにはれはれとしました。さながら糸の図書館です。ここでは、紋データに合わせて実際の糸を決めます。糸の種類も多種多様ですので、試しに織ってみたりして、慎重に検討を重ねます。一つの帯に対して「規格書」と呼ばれるものが必ずあり、そこにはその帯を制作するのに必要なデータがすべて入っています。

「うちでは、他の西陣織と違って社内一貫生産なので、すべての部署が連動して一つの方向に向かって動いているんです」と、佐々木さんが教えてくれました。



目の前に大きな建物が何棟も。川島織物セルコン本社市原事業所です。奥には「川島テキスタイルスクール」も併設。後進の育成にも力を入れています。



当日会議室にご用意いただいた商品とその試験裂。



規格書の一部。すべてを撮影することは許されませんでした。いわば川島織物の頭脳部分です。



「川島の金」と呼ばれる金色は、他社の金糸よりも、ほんの少し赤みを帯びています。金色だけでも膨大な数の色があります。



糸棚が何列もあり、色別、糸の種類別に整理整頓されています。



図案の上に糸を置いて配色をします。ここでどんでん返しになりガラッと色づかいが変わってしまうこともあるのだとか。

川島織物の礎

会議室には振袖に合う帯が展示され、空調が整った空間でペットボトルの冷たいお茶が振る舞われました。会議机の上には資料がびしっと並び、本誌の取材を受けるに当たり、誠実に準備を整えていただいたことがすでに伝わってきました。名刺交換が終わると生産部上席主幹の佐々木様一人によるオリエンテーションが始まりました。

川島織物は1843(天保14)年に初代川島甚兵衛が悉皆業を創業したのが始まりです。江戸から明治への激動の時代、長い閉鎖国をしていた日本の西洋化、近代化のスピードは目を見張るものがありました。そんな中、悉皆業から織物業を始めていた二代目川島甚兵衛は文明開

化の風を切つて1886(明治19)年にヨーロッパに渡ります。船で40日かかる命がけの旅。二代甚兵衛33歳にして遺言書を書いての旅立ちでした。言葉の壁をもとせずフランスやドイツをはじめヨーロッパ諸国の織物産地を視察。博物館や宮殿などの染織品も精力的に見て回ったそうです。翌年帰国をした二代甚兵衛は明治宮殿の御用織物など、新規事業を次々にこなしていきました。世界三大織物のひとつ、フランスのゴブラン織が、日本の緞織と同じ技法であることに着目し、日本にはなかった幅の大機に挑戦し最大幅18メートルを実現。さらに絵画的表現を求めて糸の種類や色のグラデーションにも挑みました。中でも割空という、2色の糸の撚りをほどこして半分ずつ合糸して、絵の具の色を混ぜるかのように中間色を作る技術など、二代甚兵衛の新技術開発は枚挙にいとまがありません。

図案が決まると、紋意匠図、ジャガードに経糸の操作を指示する紋データなどを作成します。かつては紋紙がやっていた仕事です。





とところどころに、穴が空いた段ボールのようなものが「紋紙」と呼ばれるもの。これが、徐々にコンピュータの紋データへと進化しています。

ジャガードの説明をしてくださる佐々木さん。

何色もの緯糸を間違えないように、ときに、平らな箔を織り込みながら、手機で丸帯（袋帯の約二倍の幅）を織り進めていました。

糸繰りをしたり、枠に巻き取ったり、ポピンに巻いたり、整経をしたり……、染め上がった糸を機にかけるためには正確で丁寧な準備が必要です。

1916（大正5）年、明治宮殿に掛ける綴織壁掛製作を宮内省より賜ったときのこと、第一次世界大戦後の混乱期に多大な犠牲を払いながら、質の良い染料を集め、ようやく五分の一ほど織り上がったところでわずかな褪（あせ）色を見つけた当主が、突然、経糸を切断してしまつたのです。体制を整え再度織り直し、正しく「真善美」といえる織物を完成させ納めたという強烈な出来事。これが「断機の訓え」として今に受け継がれていると知り、ほんやりとしていたピントがピタッと合うように、すべてが腹に落ちたような気がしました。

断機となった「春郊鷹狩」は、品質と信頼のモノづくりに徹する訓えとして後世に伝えるためにこうして残されており、この壮絶な訓えこそが強く大きな何か……、あの不思議の答えだったのかもしれない。

「真善美」とは、四代川島甚兵衛が、1964（昭和39）年に工場を現在地へ移転した際、作つた社訓の中に「真善美を追い求めましよう」という一節があり、「美しいモノ・親切なモノ・心の籠つたモノ」を作り続けようという思いが込められています。

取材を申し込んだときから、当日までの念入りな準備、お出迎えから案内まで、すべてきちんと準備、段取りされたものでした。日頃どんなに地味で小さな仕事でも準備を疎かにしない。そんな仕事をしている人たちならではの対応に感謝をしつつ、改めて作品を眺めると縦と横に交わる糸一本一本に、誇りを持って仕事をしているプロフェッショナルな社員の皆さまの姿と、会ったことのない歴代甚兵衛の姿が確かにありました。



基本は色の三原色、黄色、赤、青の割合ですべての色を出します。



少量ずつ、丁寧に糸が染められています。



カレーライスを食べるときのスプーンより少し小さめの、柄が長くスプーン部分に深さがあまりない道具を自分の手のように操っていました。

この大きな工場で、ひと総ずつ求める色を染めていく繊細で妥協を許さない丁寧な仕事。



断機の訓えとなった「春郊鷹狩」の隣に掲げられている「真善美」の額。清水寺貫主、大西良慶氏100歳1974（昭和49）年の時に揮毫していただいた書です。清水寺の貫主と聞けば「今年の漢字を一字で……」と、年末にダイナミックな文字を書く姿をニュースで観たことがある方もいらっしゃるかもしれません。



絹糸の精練をする精練場では、高い天井に広いスペース。さすがの規模の大きさを感ぜさせられます。ここで、絶妙なバランスギリギリの精練をします。

川島織物の 緞帳

日本きものシステム協同組合（JKS）加盟店で愛知県江南市のきもの館なかねの社長 中根禎裕氏を中心となって、母校の愛知県立尾北高等学校の創立100周年を記念して、体育館の緞帳を川島織物に発注。今年の2月に無事に母校の体育館に吊り込みが完了しました。詳細な記録の中から、少しだけその様子をご紹介します。



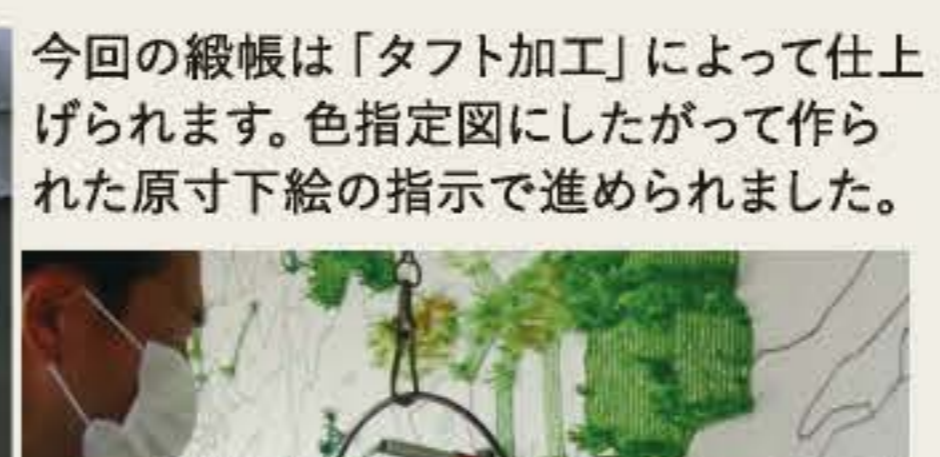
愛知県立尾北高等学校 緞帳製作工程（抜粋）



いくつかの案の中から悩みに悩んで決まった図案。



色指定図にしたがって作られた原寸下絵の指示で進められました。



今回の緞帳は「タフト加工」によって仕上げられます。色指定図にしたがって作られた原寸下絵の指示で進められました。

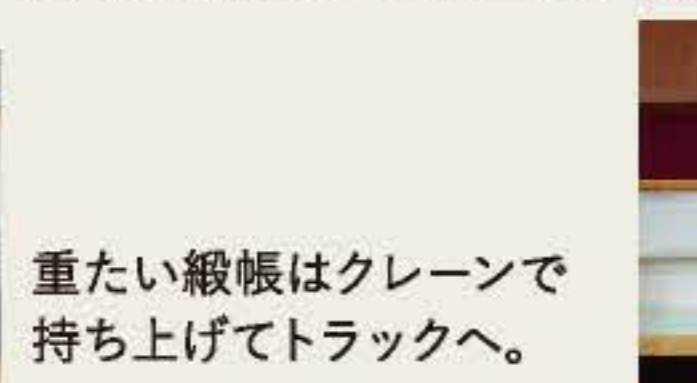
配色は、単糸見本作製だけでなく、グラデーションを美しく表現するための合糸見本も作製されました。

見本のとおり染め上がった糸を、糸繰りをして準備をします。

できあがり荷造りして搬出、設置する



重たい緞帳はクレーンで持ち上げてトラックへ。



大きな緞帳を横に巻いていきます。何人もの社員が心をひとつに、力を合わせて巻きます。



卒業生の思いのこもった緞帳が母校の体育館に無事に納められました。



卒業生の思いのこもった緞帳が母校の体育館に無事に納められました。

川島織物セルコン本社に併設されている「川島織物文化館」では、「歴代川島甚兵衛の情熱がやどる織物のための屏風絵」と題した特別展示を2023年6月2日まで行っています。常設展示も見所が多いので、ご興味を持たれた方は訪ねてみてはいかがでしょうか？（要予約TEL.075-741-4323）

川島織物文化館
<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

工場は大規模、仕事は繊細

色を決めたり合わせたりするのは、無限の可能性のある仕事ですから、難しいのではないかと尋ねると、

「経験と過去のデータベースがありますから」と佐々木さん。現場のみなさんも手際よく仕事を進めていました。ここで、実際に使う糸の質量が決まっています。

ゴワゴワとした絹糸のセリシンという物質を取り除き、糸を柔らかく艶やかにする精練の工程では、

「セリシンをすべて取り除かずにあえて少し残すのがミソです。染めでもセリシンが落ちますから、染め終わったときにちょうど良くなる絶妙なタイミングがあるんです。一貫生産の強みですね」と佐々木さん。工場の規模は超弩級の大きさでも、それぞれの仕事に限りなく繊細で、そのギャップも興味深いと思いつつ染色の部署へ行くと、いきなり部屋が明るくなりました。

「北からの採光です」と佐々木さん。電灯も最も自然光に近いデイトライトを使用。色を司る部署は光がとても大事なのだそうです。

「紫が一番違う色に見えるんですよ」と光と色について詳しく教えてくださいました。

実際に染めている社員さんは、家族4人分くらいのスリーブを作っているかのようです。コンロの上の寸胴から湯気を出し、スプーンで染料を終始無言のまま、慣れた手つきでちよい足しています。そうして一総（一定の大きさの枠）に決められた長さの絹糸を巻いて輪にした状態に西陣では約2500メートル）分の糸を大切そうに染めていました。

断機の訓え

これだけの大きな工場で、家庭のキッチンのような仕事。企画の部屋で、糸はその作品を織り上げるのに必要な量だけをその都度染めるのだと教えられました。実際の染めを拝見してなるほどそのとおりだったと納得。

染めた糸を機にかける仕事はこの日はやっていませんでしたが、整然と整理整頓された準備室を抜け、機織りの部屋へ。ここでは手機の仕事をしつくりみせていただきました。

また、写真撮影はできませんでしたが、復元を依頼された懸装品の織を見せていただき、1日の目標が2ミリだと何って一同ため息。

さらに緞帳を織っているところも特別に見せていただくことができました。果てしなく並ぶ経糸の全長は25メートル。学校にあるプールの長さです！とにかくすごい！長い！大きい！「帯なら爪搔綴れといいたるところですが、このサイズ感になるともう指搔綴れですよ」と佐々木さんが笑いながらおっしゃっていました。

巨大な緞帳の機織りを拝見しながら、この工場内でさまざまな仕事に取り組んでいる社員の方々が、それぞれ違う部屋で違う仕事をしているのに、同じ方向を向いて仕事をしていることに、ある種の不思議を感じ始めていました。息が合う理由のひとつは川島織物の特徴である「一貫生産」だからです。しかしそのひとつで片付けてしまおうわけにはいかない、もつと強くて大きな何かがある。それがはつきりしたのはおおよそその取材を終え、せつかくこまで来たのだからと「川島織物文化館」へ誘われからでした。

成功の境界線 ママ振り大作戦

母の振袖をそのまま着られるとは限らない！ 着物はある程度なら仕立て直して寸法を変えることができます！

振袖の着付けは、衿合わせをキッチリして娘らしい美しい衿元を作りますが、襦袢と振袖の身幅が合わないと、衿元がどんどん開いてだらしない印象になってしまいます。場合によっては襦袢の衿が着物の中に入り込んでしまうかも。それを避けるためにギュウギュウきつく紐で締めると体調が悪くなってしまいます。

下手すると歩いているだけで足が出てくるかも？

座ったら絶対足が出る。

母の振袖を着るのが夢だったんです。

身長がまったく同じなんです。



背が同じでも、身幅でとられるため、腕が出てきます。

振袖になる前の大元の生地「反物」の長さは同じですから、振袖に限らず着物は「内揚げ」という部分で丈をコントロールして縫い上げています。着物のすばらしいところは、直線裁ちの直線縫いで捨てるところがないところ。ですから、解き洗い張り(着物を一度解いて反物に戻して洗う)をして、筋消しなどの加工で新品のようにして、お嬢さまの寸法で縫い直すことができます。

七分袖かっ！

母にそっくりって言われます。一卵性親子なんですw

うり二つって言われるんです。



娘 母 娘 母



キレイにお手入れしてからたんすなどにしまっても、年に1度の虫干しなどをしていないと、色が変わったりシミができてことがあります。着物と帯だけでなく、長襦袢の衿や脇の部分なども念入りにチェックしてください。



臭くても消臭スプレーはチョット待った！



ここは本当は純白の「胴裏」という裏地なのですが、ずっと放置をしておくと、黄色くなったり茶色くなったり、シミだらけになったり、カビが生えたりするのです。



臭いがきつい場合は、着物ハンガーなどに下げて風を通してください。空気が乾燥しているときがお勧めです。湿度の多い地域や季節はエアコンの併用も有効です。積年の臭いはなかなかとれませんので、できれば呉服屋さんで丸洗いか洗い張りをしてスッキリキレイに、無臭にしておきたいところ。

着物を脱いだ瞬間から次に着るときの準備は始まっています。着物は生きもの、新鮮な空気が大好きです。たんすから出して着るのがイチバンのお手入れ！でも、ときどき困ることもあります。この連載では、読者の皆さまから寄せられたお手入れに関する悩みを解決していきます。

点検はお早めに

成人式なんてまだまだ先と思っていると、あちらこちらからカタログやパンフレットなどが届き始めて「え〜もう？」なんて驚いている方もいらっしゃるかもしれません。お母さまの振袖をお召しになるから大丈夫と思ってバラバラとパンフレットを眺めているその時期こそ、お召しになる予定の振袖や帯、小物や履き物などを点検する時期なのです。

着物や帯は湿度の低い季節にたんすから出して虫干しをしますが、振袖となると着用チャンスもないのでたんすの一番下に入れておけばいいかと、脱いで専用の箱に入れて箱ごとたんすの上や押し入れに入れておけばいいので虫干しをされていないケースが多いようです。

きちんと専門家がお手入れをしてからしまっても、着物の裏地にほんの少し残っていた汗や皮脂で変色したり(専門的には黄変といいますが)、カビが生えたりしていることがあります。また表の箔(金銀の箔を貼ったところ)が畳んだ反対側とくっついてしまっていたり、一部だけ色が落ちてしまっていたり、ビクビクするようなことが起きていないかもしれません。

でも、安心してください。着物は洗うことも、修復することも、直すこともできます。発見が早ければ早いほど、復活できる確率も高くなります。しかし、クリーニングに出すような簡単なことで済まない場合もあります。

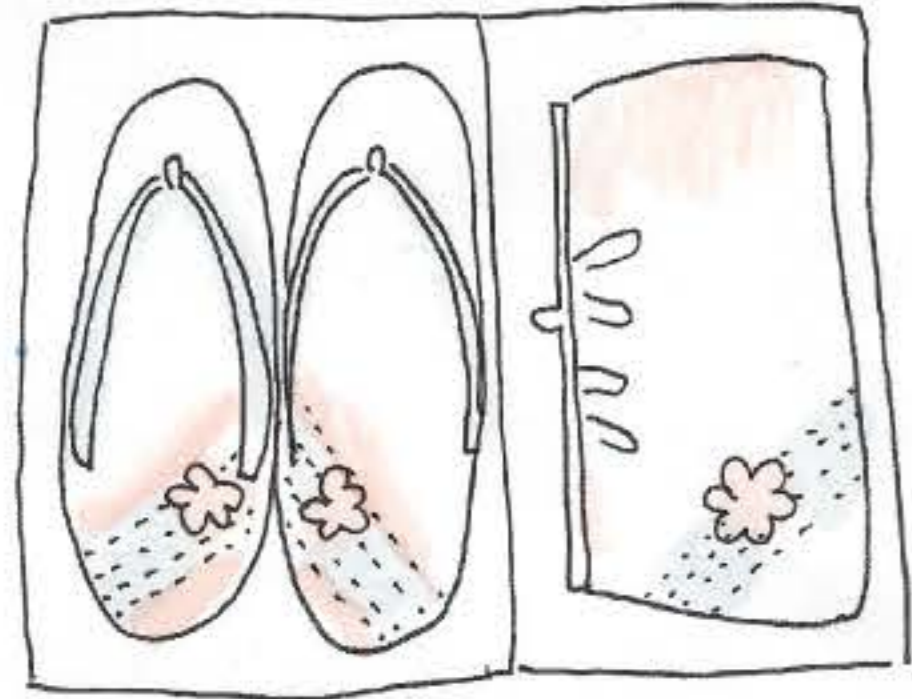
相談もお早めに！

振袖や帯の状態によって、文様を加えたり、色を直したり、ほつれた刺繍を直し直したり...、など高度な技術を要する修繕の場合は直すのに数カ月ほどかかることもあります。また、さらにもうひと世代上の祖母の振袖などになりますと、生地が弱っていたり、生地は大丈夫でも縫い糸のほう弱っていることもあります。そして、臭いも大きな情報源。特に帯などは表に響いていなくても中の芯だけが真っ黒にカビているケースもあります。カビ臭い場合は表地に響く前に芯を取り替えることをお勧めします。目に見えなくても、臭いも大事な情報です。

また、お母さまとお嬢さまの体形が違う場合は寸法を変えるために仕立て直すこともできるのが着物のすこいところ。しかし、サイズ直しが面倒だからと、サイズが大きく違うのに、そのままお召しになると、例えばお嬢さまがふくよかな場合は衿が大きく開いてしまったり、座ると足が出てしまったり。また、お嬢さまの背が高い場合、おはしりがほとんどできないため、着姿がすっきりとまらず、立ったり座ったりしているうちにくるぶしが出てしまったり...と、せっかくのお嬢さまの門出が心配なものになってしまいます。体形差、身長差がある場合はどの程度直るのか？お近くの呉服店で早めに相談しておけば、成人式には充分間に合います。何はともあれ早めの相談が肝心です。

見た目は大丈夫そうでも
しまいっぱなしの古い草履には注意しましょう。

草履あるある



古い草履を履いて、トラブルに見舞われて
コンビニに飛び込んだ経験のある方は多
いのではないのでしょうか？ 一度雨や雪で
濡れた草履をしまっておくとビックリするほ
どカビてしまったり、見た目にはなんともない
のに出先で裏がすっかりとれてしまうとい
うことも。一番悲惨なのは、裏がとれるので
はなく、表が台からとれてしまう悲劇！ 足
元がペラペラで歩けません。履き物こそ、
しっかり確認を！

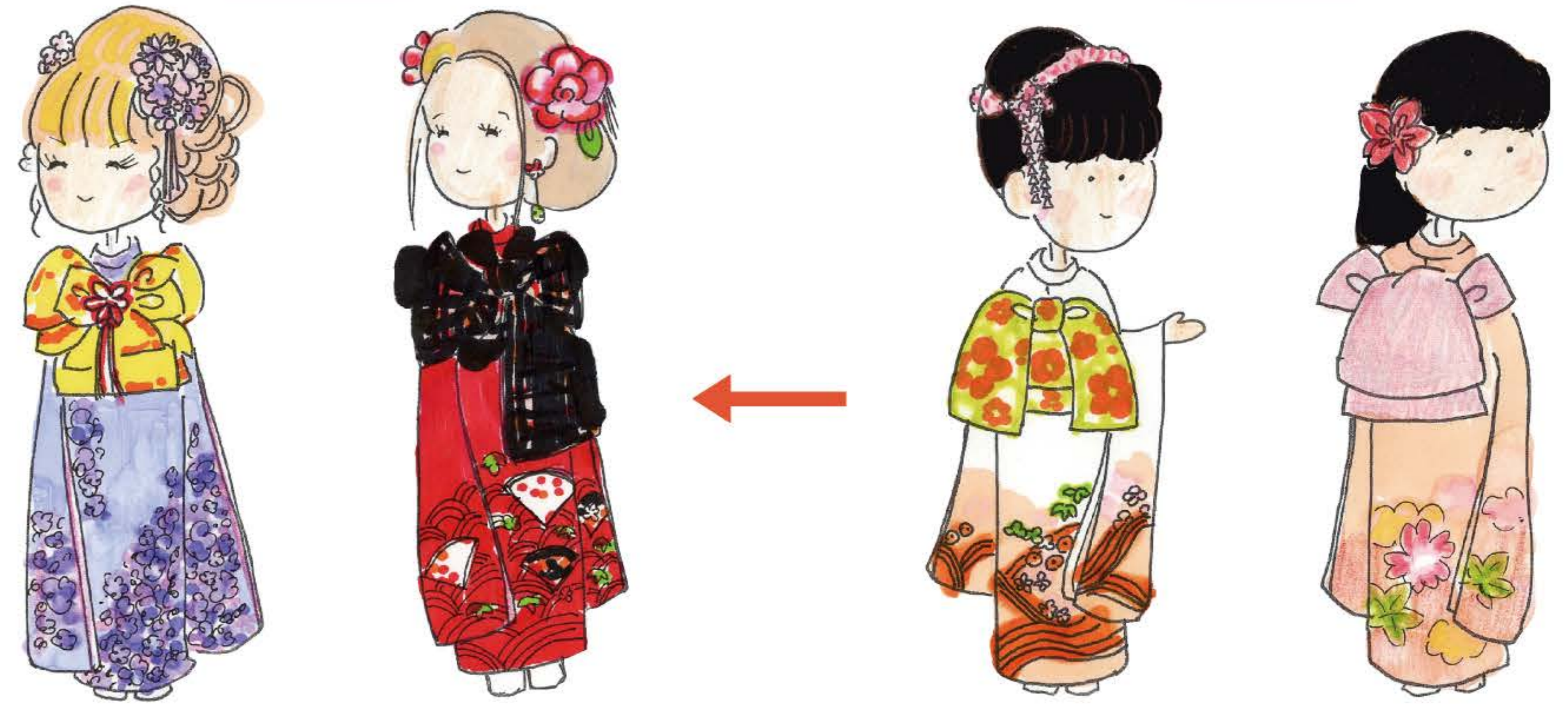
そして、お嬢さまが実際よりも少し背を高く
見せたいなどの場合、今は台の高いタイプ
があります。また、スマホや荷物がすべて
入る収納楽々タイプのバッグも。



帯結びが年々、豪華に个性的に！
振袖用の帯は長くなっています。

令和

昭和



小物を替えるとイメージがグッと
今風でおしゃれになります。



半衿(襦袢に縫い付けます)は、刺繍半衿
が主流です。白に金銀の落ち着いたタイ
プから、華やかなタイプまでさまざまです。
重ね衿は十二単の名残ですが、ポップなも
のからラインストーン入りの豪華なものまで
何枚か重ねてあるように見せるのが主流。
お手持ちの振袖とよく合わせてみてください。

振袖などのフォーマルの帯は、袋帯といっ
てかつて袋状になっていたものですが、
現代ではそれを「本袋帯」と分けて呼ん
でいます。普通の袋帯は表地と裏地があ
り一般的には裏は無地っぽいモノが多
くなっています。そしてそれに帯芯を入
れて仕立ててお召しになる方のお手元
に届けます。その芯がカビることが多
いのでよく臭いを嗅いでください。
そして、もし豪華な帯結びで現代風の
着こなしをしたい場合や、お嬢さまの
体格が良い場合は、あらかじめ呉服屋
さんで振袖用の帯と長さを比べて確
認したり、お母さまやおばあさまが
着付けをなさる場合はリハーサルを
しておくとう安心です。



着物と帯だけではない
ちなみに帯ですが、昔は文庫結びやふく
ら雀結びが主流でしたので、訪問着の帯と
同じ長さの袋帯で良かったのですが、振袖
の帯結びがだんだん豪華な結び方になっ
てきたので、西陣の機屋さんたちが少しず
つ長い帯を織り始めました。最近では振袖用
の帯が長くなり、昔の袋帯と長さがずいぶ
ん違う場合があります。長さの点検も忘れ
なく！
そして、忘れてはいけないのが草履とバ
ッグです。エナメルやビーズなどのセット
が主流だったその昔、箱に両方が入ってそ
のまま20年以上も放置しているような場合
、素材が経年劣化を起こしていることがあ
ります。最も多いのは、見た目にはなんとも
なくても履いて出かけた先で草履の裏が剥
がれ落ちてしまうケース。丁寧な点検をお
勧めします。さらにバッグが、ハンカチと
ティッシュくらいしか入らないほど小さい
ことも。スマホや化粧品など、どうしても
入りたいものが出し入れできるかどうか試
してみてください。
最後に、半衿や重ね衿、帯締、帯揚です。
半衿は長襦袢に付いています。かつては白
の縮緬か塩瀬が多かったのですが、現在は
刺繍されているものが主流。重ね衿も豪華
です。帯締も飾りの付いたものやデザイン
されたものも多いので一度お店で現物を見
せてもらうのもいいですね。

季節を楽しむ、旬の小物たち



華やかな装いの機会が増える
きらめきのウィンターシーズン
ディテールにこだわった
小物たちがそろいました

足袋



おしゃれも安心も、譲れない



商品協力/和光株式会社



3

一気にロマンチック度アップ



- 1** 足元にも、ほんのちょっとした私らしさをプラス。
◆オーガニック足袋 tenitol(左上3点とも:フリーサイズ 22.5~25cm、本体 綿100%、底 ナイロン100%) 各3,300円(税込) たび姫(右上3点とも:フリーサイズ 22.5~24.5cm、本体 ナイロン100%、刺繍糸 レーヨン100%) 各858円(税込) きらり小町(下3点とも:フリーサイズ 22.5~24.5cm、本体 ナイロン100%、ラインストーンクリスタル) 各858円(税込)
- 2** マスクだって、全身コーディネートしたい! という方に花柄刺繍のマスク。揺れるチャーム付きで、抗菌・抗ウイルス生地使用です。
◆晴れ着マスク 花ひめ(表:ポリエステル、裏:綿) 各3,080円(税込)
- 3** 優美なレースとパール使い。パーティーコーディネートで活躍しそう。
◆重ね衿(表:ポリエステル100%、裏:ナイロン100%、芯地:不織布、パール:樹脂パール、レース:ポリエステル100%) 各11,000円(税込)



秋冬テイストで ふっくら、こっくり

4



晴れの装いの決め手に 厳選の逸品を

5



どんな花を咲かせたい? 素材感も楽しんで

- 4** 全体的に丸みを帯びた空気感。冬の装いに、やわらかな温かさを添えてくれます。
◆草履バッグセット(上) レースパールバッグ(W22×H14×D12cm、表:ポリエステル100%、裏:綿100%) 草履(フリーサイズ、鼻緒:ポリエステル100%、台表:合成皮革) 52,800円(税込)
◆草履バッグセット(下) バッグ(W24×H14×D9cm) 草履(フリーサイズ、鼻緒:ポリエステル100%、台表:合成皮革) 63,800円(税込)
- 5** 振袖姿の仕上げを飾る、とっておきのバッグと草履。持ち手、留具までもが輝いています。
◆草履バッグセット(左) バッグ(W21×H18×D13cm、表:正絹袋帯地) 草履(フリーサイズ、鼻緒:正絹袋帯地、台表:合成皮革) 52,800円(税込)
◆草履バッグセット(右) バッグ(W26×H13×D11cm、表:正絹袋帯地) 草履(フリーサイズ、鼻緒:正絹袋帯地、台表:合成皮革) 85,800円(税込)

- 6** 色、形だけでなく大きさや、コム、ピンタイプなどパーツもチェック。配置をイメージして、理想のヘアスタイルに。
◆髪飾り各種 椿(右上)から時計回りに(すべて税込み価格)。
①椿/コム 9,350円、②花+水引/Uピン 9,900円、③つまみ細工花+鈴/かんざし 11,000円、④花+レースリボン/コム 10,450円、⑤花+水引/Uピン 9,900円、⑥花/Uピン 9,900円、⑦花/Uピン 9,350円、⑧花/Uピン 9,350円、⑨花+水引/Uピン 9,900円、⑩つまみ細工花/かんざし 8,580円、⑪花+つまみ細工/Uピン 13,200円

- 7** ファー付きの華やかさ、刺繍のキュートさに迷います。
◆ファー付き半円ベルベットショール(左上:175×50cm、本体表地:レーヨン100% 裏地:ポリエステル100% フェイクファー:アクリル100%) 52,800円(税込)
◆ベルベットショール(下2枚とも:175×45cm、表地:レーヨン100% 裏地:ポリエステル100%) 各41,800円(税込)

- 8** モダンテイストの椿文様が印象的な帯場は、たっぷりを見せて。帯締とのセット使いで、効果的に。
◆帯締(絹100%、金属糸使用) 各15,400円(税込)
◆帯場(絹100%) 各16,500円(税込)



肩まわりをやさしいラインに 見せてくれる

7



椿モチーフで ビビッドに

8

一人でできる アレンジヘア

祇園にし 女将
西里映さん



着物のとき、一番の悩みはヘアスタイルという方も多いことでしょう。毎日、着物姿でお店を切り盛りしている「祇園にし」の女将西里映さんに、ヘアアレンジを教えてくださいました。

急いでいるときはひつめにお団子や、夜会巻きでもすてきですが、少し練習すれば覚えられそうな、それぞれの季節のすてきなヘアスタイル。ぜひ、挑戦してみてください。

色無地にも見えるシンプルな小紋に楽しいクリスマスツリーのなごや帯を締めて、心ときめく遊び心たっぷりのコーディネートです。

準備するもの

- ヘアブラシ
- コーム
- ホットカーラー
- ワックスやオイルなど(お好みで)
- 毛タボ
- アメピン
- パレット
- ヘアゴム
- ダッカール(ヘアクリップ)
- ヘアスプレー(必要な方)
- お好みの髪飾り



1 よくブラッシングをしてつやを出し、くし目を整えておきます。



2 ホットカーラーでざっくりと巻いて、毛先を扱いやすくします。



3 前髪を立ち上げたい分量残します。大きく立ち上げたい方は少し多目にとってダッカールで留め、残りをあごと耳の延長線でポニーテールにします。



4 ゴムでしっかり留めます。トップを低めにした人は、少し低めでもかまいません。



5 一つに束ねたゴムより少し上の位置をパレットやアメピンでしっかり留めます。



6 ⑤でゴムの少し上に留めたパレットやアメピンの上、後ろ側だけに、少しずつしっかりと逆毛を立てます。



7 ゴムの結び目を中心にふんわりと広げた毛タボを置き、アメピンでしっかり内側を留めます。



8 逆毛を立てた髪を扇を広げるようになでつけながら毛タボにかぶせて広げ、整えて余った毛先をゴムで留めます。



9 毛先は、中に入れ込んでアメピンで留め、前髪は逆毛を立ててお好みのカタチに整えます。



10 お好みの髪飾り、かんざしなどを挿してできあがりしました。



簡単にボリューム感のある冬のパーティーヘアの完成です。

プロフィール

京都府出身。料理人であるご主人の独立を機に「祇園にし」の女将となりました。

お客さまの大切な時間を思い出に残るすてきなひとときにしたいと、想いは人一倍。伝統が息づく京都の素晴らしさを伝えようと日々努力を重ね、器やくつろげる空間づくりにも配慮を怠らない女将。持ち前の明るく人懐っこい人柄で、訪れる人を毎日温かくもてなしています。

四号連続のこの連載では、四季折々の里映さんの着物姿と共に、ヘアスタイルの作り方をご紹介します。

《祇園にし》

京都市東山区月見町21番2号
TEL 075-532-4124

営業時間／
ランチ 12時～ デイナー 18時～
定休日／月曜日・火曜日のランチ、
その他不定休



下野 美智子 ●michiko shimono
京都市生まれ
舞妓に出会う機会が多い京都東山に生まれ、幼少の頃より目にするかんざしに魅せられて育ち、大人になり美容の世界へ。日本髪勉強へと方向を移し、孫の誕生によりつまみ細工の創作活動に入る。「作ってほしい」「教えてほしい」という周りの声に後押しされ、つまみ細工体験処を開店。

木俣 朋子 ●tomoko kimata
京都市生まれ
実母の手伝いをするうち、つまみ細工の創作活動、体験処講師として活動を開始。

**京つまみ細工体験処
ゆるり工房凸凹庵**
〒606-8416
京都市左京区浄土寺上馬場町47-1
TEL 075-751-9887
<http://dekobokoan.seesaa.net/>

つまみ
かんざし
冬
花万葉

四季折々に私たちの目を楽しませ、心を癒やしてくれる季節の花たちを、つまみかんざしにして季節の移ろいを楽しむ連載。



我が背子に見せむと思ひし梅の花
それとも見えず雪の降れば

やまへのすくねあかひと
山部宿禰赤人

現代語訳
愛しい人に見せたいと思っていた梅の花はどこなかわからなくなってしまう。雪が一面に降ってしまったので。



道具

- でんぶん糊
- 木工ボンド
- ハサミ
- 木の板

写真は写ろていませんが、ピンセットがあると作りやすいです。

丸つまみ二重ふたえ
の作り方

冬号では基本の「丸つまみ二重」の作り方を教えていただきます。これを組み合わせることで花にしたり、右の写真では梅の花びらに使われています。

1 作りたい大きさに合わせて布を正方形にカットし、角に糊を付けます。

2 二重にする二枚の布の両方も角に糊を付けて△にしておきます。

3 外側になる布地に糊を付けます。

4 内側になる布地を少しずらして合ませます。

5 輪の中心をつまみます。

6 △の両辺を二枚重ねて下へパタンと折ります。

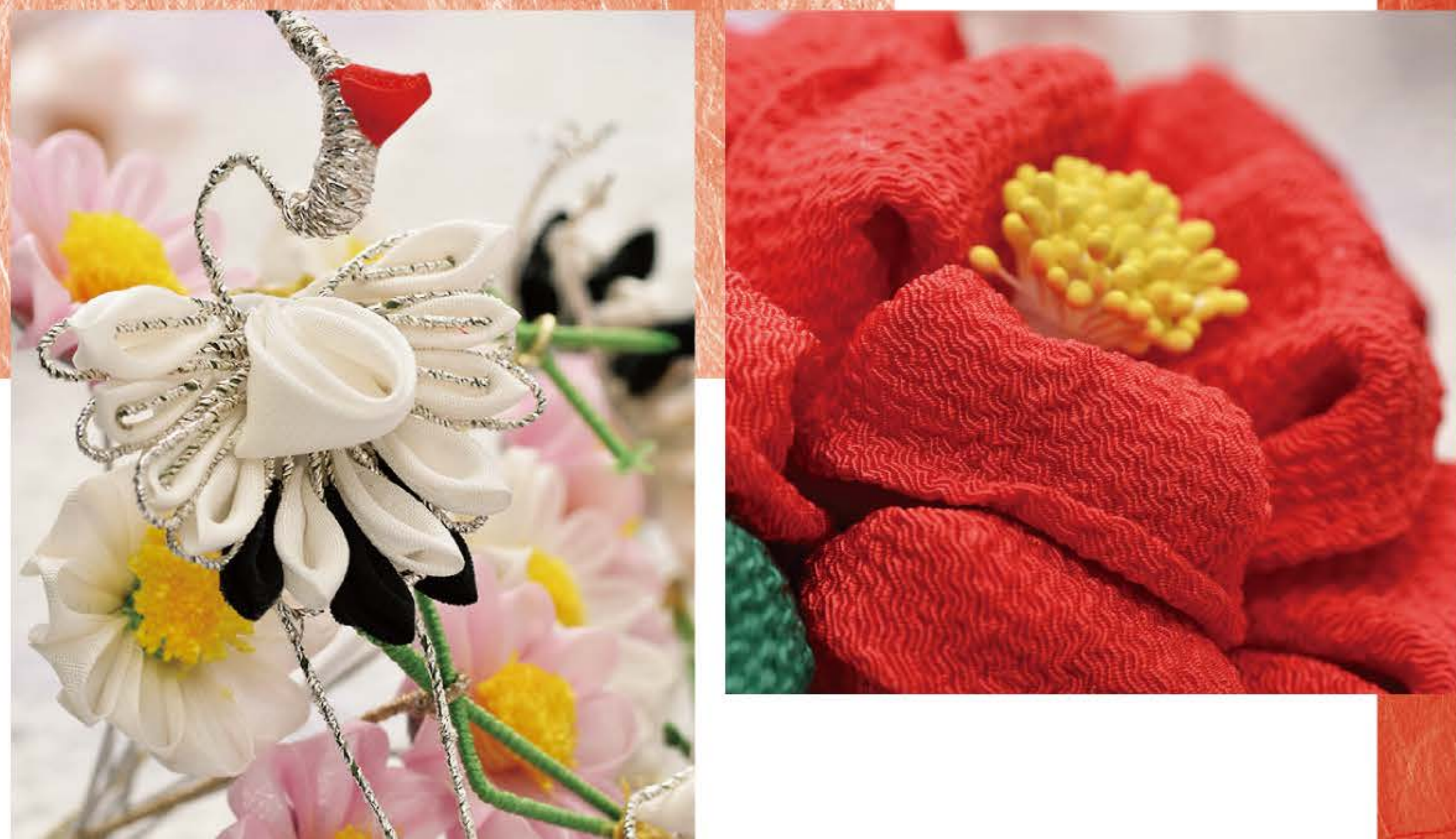
7 輪を上にして△の頂点よりも少し上を二枚重ねてつまみます。

8 Wのように△の両辺を二枚重ねて折り上げます。

9 丸つまみ二重の花びらが一つできました。必要な個数を作って組み合わせます。

10 複数の丸つまみを作る場合は板にでんぶん糊を広げ、その上に置いておきます。

万葉集に最も多くうたわれている花は萩、そしてその次が梅で122首にも及びます。琳派の屏風などには紅白梅図などが盛んに描かれています。万葉集の梅はすべて白梅。紅梅が伝わるのは少し後の時代になるようです。たぐさんの別名を持つ梅は、古くから親しまれていたことが分かります。



祇園 にし

最終回 冬のお取り寄せ

味噌漬け



撮影/西 治光

- 銀鱈(ぎんだら)味噌漬け 一切れ 810円(税込)
- からす鰯(かれい)味噌漬け 一切れ 756円(税込)
- 鰯(ぶり)味噌漬け 一切れ 756円(税込)
- 手羽先味噌漬け 一切れ 756円(税込)
- 明太子味噌漬け 一切れ 810円(税込)

大将からのおすすめポイント
京都の伝統料理である「味噌漬け」を、祇園の宮川町にある、老舗味噌店の西京味噌を使用し、「祇園にし」独自の味に仕上げました。ぜひたくで品の良い味わいをお楽しみいただけます。冬の贈答品としても人気です。

*組み合わせギフトも可能 詳しくはこちらから☞



「祇園にし」のお取り寄せ

京都の食通が教えてくれた、
駅やデパートでは巡り会えない
美味しいものをご紹介しますこのコーナー。
最初のシリーズは、
「祇園にし」のお取り寄せです。

京都東山の石塀小路の近くにある日本料理店。
和モダンな空間のなか、ゆっくりと四季の移ろいをたのしみながら、選りすぐりの旬の食材をふんだんに



盛り込んだお料理をたっぷり味わえます。
2階は「GION NISHI STORE」で、ご家庭で楽しめるよう工夫された、さまざまなお味のお持ち帰りができます。

TEL 075-532-4124
<https://www.gionnishi.net/>

〒605-0829
京都市東山区月見町21番2号2階
営業時間/11:00~16:00
定休日/日・月曜日 その他不定休



GION NISHI
STORE

装いは人柄

日本女性の引き出し

日本には二十四もの美しい季節があります。四季折々の移ろいの中にさらに、空や大地の営みや、気配や気分が変わるたくさんの季節を二十四節気と呼び、多くの年中行事や風習がそれにしたがって営まれてきました。美しい国に生まれたことを喜び、先人たちが、季節に寄り添い、自然の中で生きてきたステキな行事や風習をきもの世界をとおしてお伝えしていきます。

「和」の心で新年を寿ぐ

「和」というと平和の「和」や調和の「和」など、穏やかでのどかで、争いごとのない様子を表します。一方「和」は、

「和風」とか「和服」のように私たちの国そのものを表しもします。東西に長い島国日本の各地には、それぞれの風土や風習が色濃く根付いていますが、たとえ地域が違う同士が出会い知り合っても、

その違いを決して否定することなく、互いを尊重するという寛容な性質が日本人にはあるような気がします。例えば、時代を大きくさかのほれば、外国から仏教や漢字など、枚挙にいとまがないほどさまざまな文化や文明が入ってきました。日本人はそれらを器用に受け入れ、学び自分たちの暮らしや風習と上手に調和させ、融合させて発展してきたのです。まさしく「和」ですね。

現代も猛烈なスピードですさまじい量の新しい物事を、社会も個人も適度に取り入れて自分の暮らしに活用しています。が、そうした速度や量に少しくたびれてきているのも正直なところ。新しい年を迎えるに当たり、逆に時代のスピードの加速と共に消えてしまった風習や、効率を求めるが故に面倒とされ、消えかけている風習に目を向け、それこそ和の精神

で、面倒なことや非効率なことをゆっくり自分のペースで楽しんでみるというのはいかがでしょうか。

例えば、季節や節目ごとにある日本の年中行事を紐解いてその歴史や謂れを知るとか、旬の食物を取り入れて免疫力を上げるとか、季節の変化に対する戒めなどの古（いにしえ）の人々の生活の知恵を改めて見直して、自分の暮らしに取り入れてみるのも「和」の精神ではないかと思うのです。

もうすぐ新しい年がやってきます。お正月の迎え方、中でも「お雑煮」や「お餅の形」などは各地でかなり差違があり、実に興味深いことです。昨今のお節料理には鶏の唐揚げや海老フライ、ローストビーフなども入っていますが、それはちよつと置いておき、お節料理一つひとつの意味を知る、あるいは家族に伝えるというのはいかがでしょう。食生活が日常的に豊かになり、好きなモノだけを食べて暮らせるようになりましたが、意味や謂れを知ること、お節料理を楽しく、ありがたくいただけるかもしれません。特集では振袖の吉祥文様をお伝えしました。読者の皆さまには新年にふさわしい吉祥文様を身に着けて新しい年を寿ぐ

ことをお勧めします。準備などが少し大変かもしれませんが、まさしく衿を正して年神様にお参りをするという年中行事を行うと、心が豊かになっていくのを感じていただけるはず。忙しい大晦日の夜から元旦に行けなくても、松の内にお参りをすれば大丈夫ですので、ストレスにならないよう混雑や密を避けてお参りください。一年の最初の年中行事であるお正月を着物で迎えること、新しい年が輝きを

増し、心豊かな日々が訪れることでしょう。

歌舞伎役者は一か月間毎日同じ演目の舞台上に上がりますが、足袋は毎日新しいものを下ろして履きます。毎日新しい気持ちでお客さまと、神聖な舞台に挑んでいるのです。気持ちの問題かもしれませんが、年の初めの「気持ちの問題」は、想像以上に大きいもの。かつて、新年は新しい着物に袖を通しました。毎年着物を新調するのは大変かもしれませんが、下着、足袋、例えば襦袢の衿ひとつでも新品を身に着けて氏神様にお参りすると、清々しい一年になりそうです。



包んで遊んで楽しい和

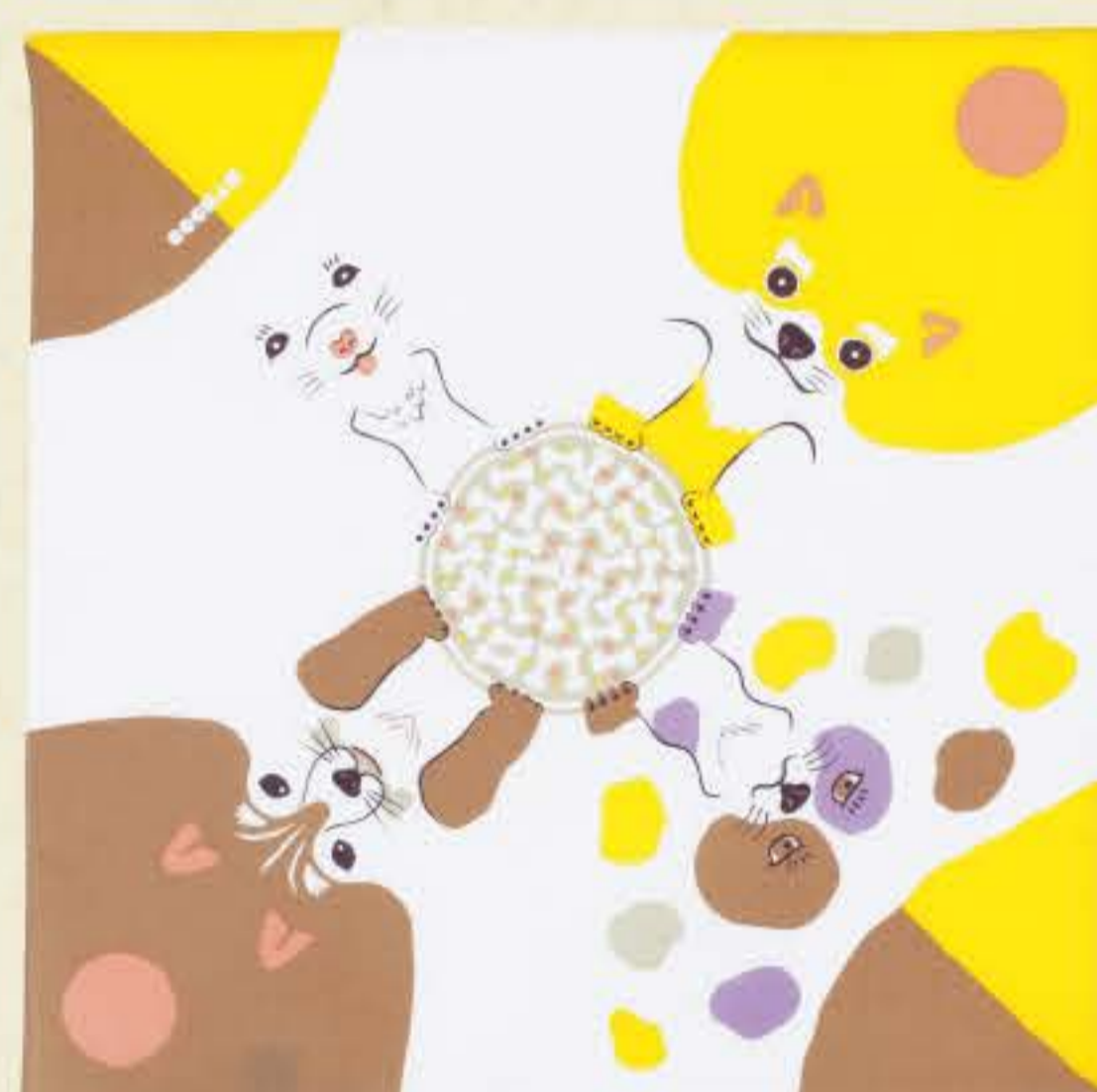
着物ファンには欠かせないアイテムの風呂敷を、ファッションに、インテリアにと上手に取り入れて楽しんでみませんか？



使った風呂敷：「どうぶつコチャエ イヌ」キイロ 約48×48cm（綿 100%）

思わず笑みがこぼれる

楽しい風呂敷を一枚持っていれば人気者！

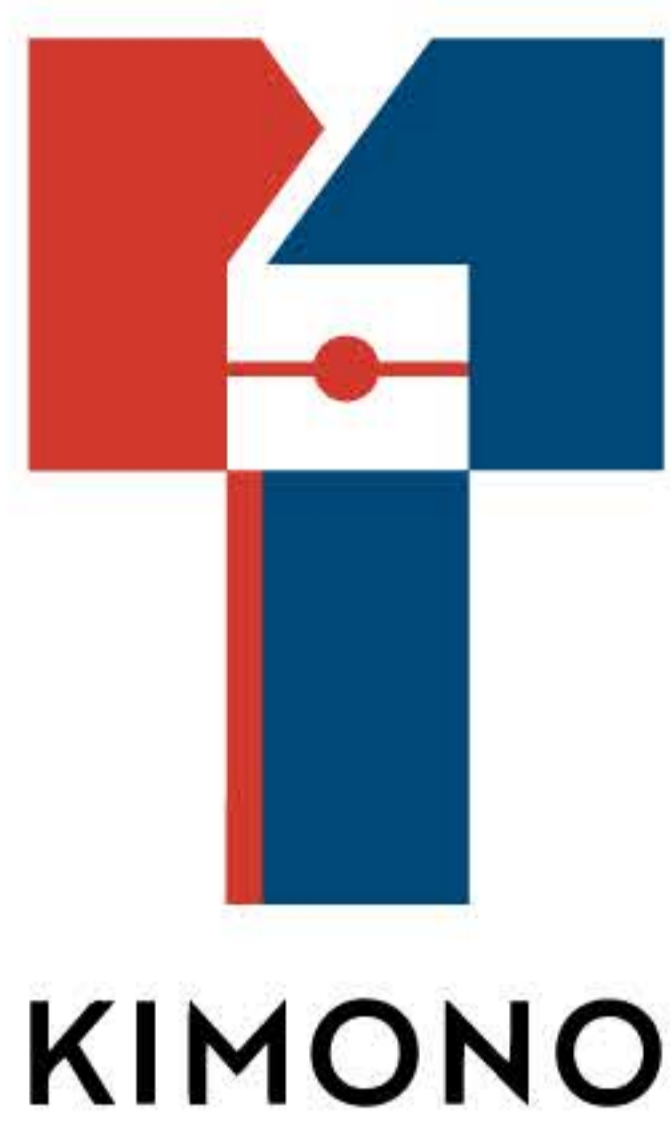


どの部分をメインにするかで楽しさ4倍。その日の気分でお弁当などを包み替えても楽しいです。クリスマスプレゼントを包んでも喜ばれそう。

ネコバージョンもあります。



どうぶつコチャエ



「きもの文化」をユネスコ無形文化遺産に！

私たちは、日本の伝統的衣装文化である「きもの文化」のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組を推進しています。